

書牘卷之三（四 往信）

病氣見舞帖

以^二手紙^一、致^二啓上^一候、兎角
不順之時候^二候へとも、弥
御安全珍重之至^二存候、
然^者は、御老母御儀、先
比より御病氣之
由、何廉御心配察し
申候、此節之御様子、いか
ゝ^爾に御座候哉、致^二承知^一
度、先日より参上可^二相^一
伺^一存候へ共、繁勤中
無^二余儀^一、使を以申達候、
御病人之御口^爾に合ひ可^レ
申哉、難^レ計候へとも、
鶏卵一箱差上候間、御
笑留被^レ下度候、猶、御手
当御專一ト存候也、

※漢字は全て新字体に直したが、原文が旧字体に近い書体で書かれている場合は、右脇に旧字体を添えた。

※変体仮名は現行の平仮名に直した。なお、字母に当たる漢字を右脇に添えた。

書牘卷之三（四 返信）

御紙面致_二拜見_一候、如_レ

命、不順之時候ニ候へ共、

益御壮健、目出度存

候、老母病氣、預_二御尋問_一

難_レ有存候、何分老体

之儀、只々日々疲れ相増、

食物も進み兼、甚心

配罷在候_處、昨日より

俄に様子宜敷、少々ツ、

食気相催、此姿ニ而、外

邪等之憂も無_レ之候

ハ、追々快方にも赴_爾き

可_レ申旨、_醫医師申聞

候折柄、何寄之品御

恵贈被_レ下、早速為_レ戴

可_レ申卜、難_レ有存候、先は_者、

看病中御礼のみ、草

々不一、

※漢字は全て新字体に直したが、原文が旧字体に近い書体で書かれている場合は、右脇に旧字体を添えた。

※変体仮名は現行の平仮名に直した。なお、字母に当たる漢字を右脇に添えた。